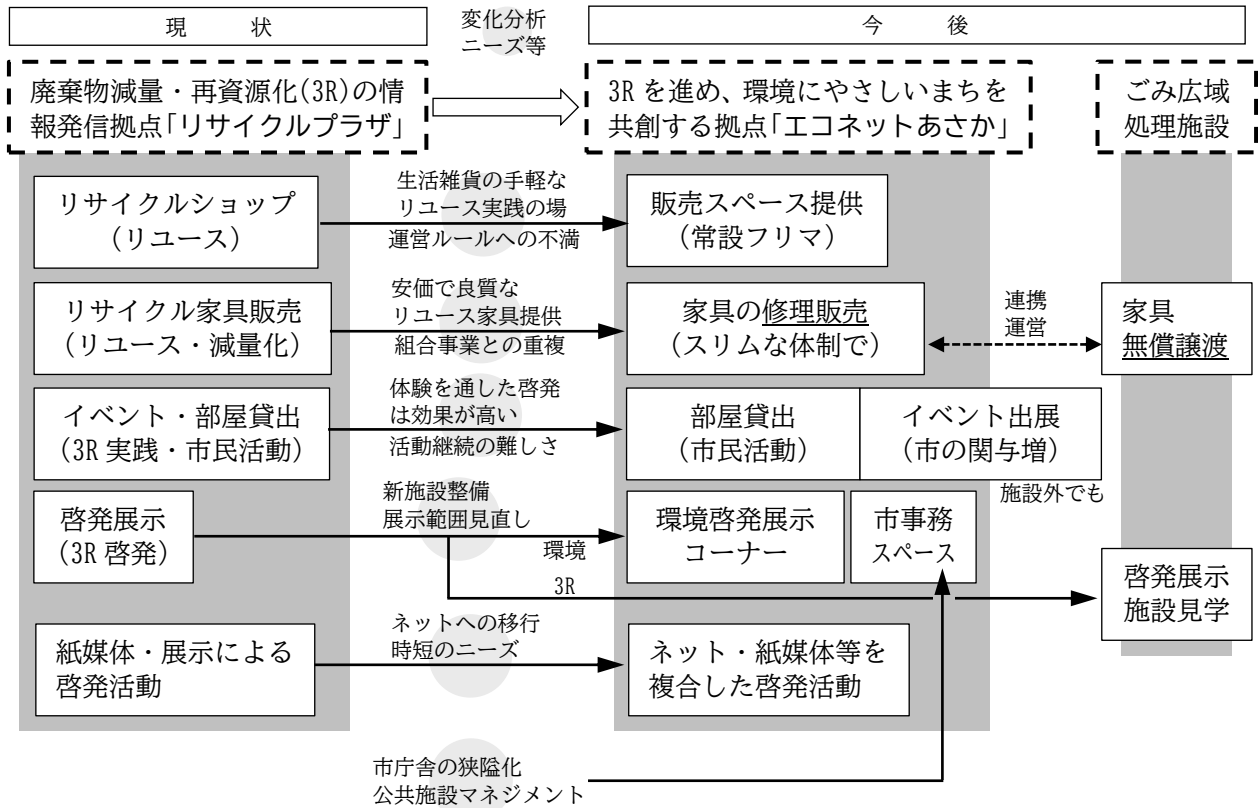


啓発事業の再構築案

前回までの議論や、市民アンケート、リサイクルプラザ企画運営協議会の意見などを踏まえ、リサイクルプラザの各事業を再構築する具体案を以下に検討する。

1 全体の変化イメージ



2 事業と施設の方向性

現状	廃棄物減量化・再資源化(3R)の啓発、情報発信拠点「リサイクルプラザ」
今後	3Rを進め、環境にやさしいまちを共創する活動拠点「エコネットあさか」 【詳細】(案) ○市民、民間企業、市の3者が協力しながら、《環境にやさしいまち》を共に創っていく活動拠点とする。 ○「集まる施設」から、「市内各所へ活動に出掛けていく拠点」へ。 ○対象とする領域を、「廃棄物」→「廃棄物を含む環境全般」に拡大する。 ○施設の位置づけを明確化するため、現在の愛称を正式名称にする。

3 リサイクルショップの方向性

現状	市民が不用品を出品し、展示販売する。委託販売の形態。売上は全額出品者に支払う。
今後	常設のフリーマーケットのような形態。市民が不用品を販売できるスペースを安価に貸し出す。売上は市職員が代行徴収し、販売者に渡す。 【詳細】(案) ○ボックス、床スペース、ハンガーラック、机などの単位で販売スペースを提供する。月～週単位で有償にて受け付ける。展示方法は販売者に任せる。 ○品目はリユース品とするが、細かな制限は設けない。価格も制限なし。 ○代金を代行徴収し、出店受付のための店員を1人配置する。 ○販売品には統一のタグを付けてもらい、販売時に回収することで管理する。

(参考) 市内でも、展示販売スペースを有償でレンタルするショップが複数ある。リユース品に限定することで、これらとの競争を避ける。

4 リサイクル家具販売の方向性

現状	不用家具を自宅収集または持込。修理のうえ展示販売している。売上は全額市の収入。
今後	修理あり・有償販売の家具は、当施設で事業を行う。修理なし・無償譲渡の家具は、組合新施設で事業を行う。両者の展示家具は、統一したホームページでシームレスに情報提供する。 【詳細】(案) ○既存事業を基本に事業を継続する。協議を継続して、役割分担や連携手法を検討していく。 ○当施設では自宅収集または持込、組合新施設では粗大ごみからのピックアップを想定。家具状態により両施設間の家具移動が発生するため、現在のトラックを活用して移動する。 ○当施設では商品価値の高いものを中心に扱い、売れなかったものは再販売せず組合新施設へ移動するなどして、保管点数を減らし、スリム化したうえで継続する。

(参考) 組合・和光市と意見交換した結果を反映させた案。ただし、今後変更の可能性もある。

5 イベント・部屋貸しの方向性

現状	リサイクルプラザ企画運営協議会がイベントを実施。 環境に関連した活動を行う団体に、活動場所として部屋を貸し出している。
今後	市と市民活動団体の共催でイベントを実施する。 市内で開催されるイベントで啓発を行う。 環境に関連した活動を行う団体に、部屋を貸し出す。(リサイクル工房に限定) 【詳細】(案) ○講座等のイベント、スクールグッズシェアリングは、企画段階から市が関与し、市と市民活動団体の共催の形で実施する。 ○ストリートテラスなど、市内のイベントでブース出展・啓発品配布などを行い、街頭啓発を行う。 ○部屋の貸し出しは、現在の利用実態から、リサイクル工房に限定して継続。利用目的は「環境・廃棄物に関する活動」に限定。(現状と変わらず)

6 啓発展示の方向性

現状	クリーンセンターでの施設見学と、リサイクルプラザでの3R啓発展示。
今後	3Rに関する啓発展示と施設見学は、組合の新施設に統合する。展示内容は、今後、組合・和光市・事業者と協議していく。新施設での展示内容を概要版として当施設で展示することも想定する。 当施設では、新たに環境全般に関する啓発コーナーを設ける。

7 その他

【啓発の方向性】

- 紙媒体や施設での展示が中心の啓発から、ネット・紙など多くの媒体をミックスした啓発に転換していく。(インスタグラム等のSNS活用)

【公共施設マネジメント】

- 市庁舎の狭隘化がかねてから指摘されており、今回の事業再構築によって捻出されたスペースを、市の事務スペースに転用することを検討する。
- 具体的には、施設の新たな位置づけである「市民、民間企業、市の3者が協力しながら、『環境にやさしいまち』を共に創っていく活動拠点」を支える部署の移転を想定する。検討にあたっては、関係各課と協議を重ねていく。

以上